



<学校の教育目標>
心豊かに たくましく 生きる子

さくら

可児市立桜ヶ丘小学校
No. 4
令和3年6月23日



自己を見つめ、よりよく生きようとする

校長 小田 一洋

令和3年度は、道徳の授業研究を重点に、私たち教員の指導力向上を図ろうと努力をしているところです。5月末から6月にかけて、2年生の授業を切り口に全校で研究を進めました。

表題は研究での願いです。「自己を見つめる」とは、授業で焦点をあてた言動や価値観について、これまでの自分の生活経験や感じ方・考え方と照らし合わせながら、自分との関わりで考えさせること、です。教科の学習や様々な活動の場においても、自分の思いを伝えたり相手の思いをくみ取ったり、対話的な関わりを大切にしています。自分の考え方を確認したり、友達の感じ方や捉え方を十分理解したり、その繰り返しで新たなよりよい価値観を創り上げていくことをめざします。

よいこととわるいこと…全校研究授業から ～よりよく生きる関わりを学ぶ～

低学年では、よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行う力を付けたいです。

2年生では、「ぼんたとかんた」というお話(資料)をもとに学習を進めていきました。【あらすじ】お話の中で、かんたの危ない場所(山の中の秘密基地)での遊びの誘いを、ぼんたは行くか行かないかをじっくり考え、自分で決めて、はっきりと断る姿を見せます。かんたは、つい楽しさゆえに危ない場所へ行きかけるのですが、ぼんたの「ぼくは行かない。…」と、はっきりと断る姿から、かんたも「ぼくも行かない。自分で考えて決めた。」と行くことをやめて公園で遊びます。



2年3組
全校研究授業から

2年生の子どもたちはこのお話のよいこととわるいことの区別はできます。しかし、実際の生活では、ぼんたのように初めからよいことを選択し実行できる子、かんたのようについ善悪の判断より楽しいことに流されそうになってしまう子、その中間で悩む子、色々な子どもたちがいます。

学校での学びでは、自己の理解(自分の感じ方や考え方の見直し)と共に他者の理解(友達の感じ方や考え方を知る)を大切にしています。このお話のぼんたの言動は素晴らしいと共に、ぼんたに感化されていくかんたの姿もとても生き方を見直す素晴らしい姿です。

授業の終盤で、担任は「ぼんたのような子がいるよ。」と学校生活の中での子どもたちの良さを位置付けていました。

家庭でも、「ぼんた」と共に「かんた」のような成長を見せた時、ぜひほめてあげてください。また、ダメでしょと叱るだけでなく、なぜダメなのか考えさせることも大切にしたいものです。

今日は何が楽しみかな? ～夏休みまで1ヶ月!めあてづくりの指導が始まります～

朝、登校してくる子どもたちに「今日は何が楽しみ?」と聞きます。「体育のリレー!」「今日は図工!」「昼休みっ!」「総合の時間、タブレットを使って…」と答えが返ってきます。でも、中には「何にもない」という子も。そんな時、「何か見つけようっ!」と声掛けをしています。

当たり前のように、毎日が過ぎていきますが、大きな行事だけでなく、日々や一週間ごとの短い期間での頑張りや意欲の積み重ねも、自己を見つめ、よりよく生きようとする姿勢につながります。

学校では、教育相談週間を6/11から行っています。今がんばっていることは何かな?困っていることはないかな?などと学級担任が一人一人と懇談を進めています。夏休み前の学校生活の充実を促すと共に、これからは、学年ごとに夏休みの過ごし方についても指導が始まります。

おうちでも「学校で何が楽しみ?」と話しかけてあげてください。また、夏休みの目標づくりに一言アドバイスをお願いします。